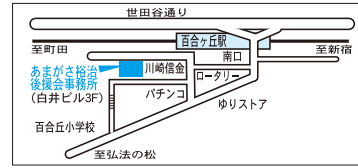




発行所／
みらい川崎市議会議員団事務局
 〒210-8577
 川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内
 TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所／
 〒215-0011
 川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
 小田急線百合丘駅下車徒歩1分
 TEL・FAX:044-955-2417
 メール: amagasa@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <https://www.e-amagasa.net> Facebook、Twitterでも情報発信しています



新百合ヶ丘駅位置決定が最優先 いまの調査検討結果を発表し民間とともに新百合ヶ丘の再生へ

あざみ野から新百合ヶ丘駅への「横浜市営地下鉄ブルーラインの延伸計画」は、「新百合ヶ丘駅周辺のまちづくり推進事業」そのものだといえます。

事業の達成には、**新百合ヶ丘新駅の位置の早期確定が何よりも重要**です。

新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりは、「買い物をするならば、二子玉川やたまプラーザよりも新百合ヶ丘へ」といった選ばれる街、人が集積する中心地として、駅南北一体での商圈を充実させる必要があります。これらの変化により、現状は閑静で良好な住宅街でありながらも、新百合ヶ丘駅までバスで5分、10分かかるために高齢化や老朽化が進む「住宅地エリア」を、次世代の人たちに、都市としてのサービスを楽しみながら、緑豊かな環境を満喫できる魅力ある「住みたい街」として選択してもらわなければなりません。サステナブル(持続可能)な街として、生き残っていくために重要なコンセプトだと考えています。

事業化決定後、駅周辺への民間事業者の投資意欲や再開発の機運が高まってきています。この民間の活力を使いながら、老朽化する公共施設や、立地自体が必要性を問われている麻生消防署など、民間施設を含めた新百合ヶ丘駅北口の再開発・ロータリーの機能拡充を具体

的に検討する時期になったといえます。駅北口再開発の中では、魅力あるこれからの時代の流れにあった新たな商業集積が必要です。基盤整備を前提に、新百合ヶ丘駅南北で新しい交通インフラの分散を図ることも必須のことです。いま世界中で取り組まれているMaaS (IoTによる次世代モビリティを活用し、いろいろなサービスを連携させた移動手段) への取組に対応する、バス乗降可能な機能性のあるロータリー設置をしなければなりません。

今回の質疑を通じ、新百合ヶ丘駅 南北ロータリーの機能分散化を図り 大幅に北口の機能強化を見直すことを確認

まちづくり分科会の答弁では、令和2年(2020年)度の事業内容について、新百合ヶ丘の駅位置に応じた駅前広場の影響や、具体的な駅位置等について横浜市と連携し検討を行っているとのことでした。「令和2年度横浜市高速鉄道3号線延伸計画推進業務委託」として、令和3年3月31日までに報告書ができています。

駅位置、小田急線との接続方法について検討した資料がありながら、市は「検討を進めている」と答弁するばかりで、検討の詳細を明らかにしません。報告書の開示を求めましたが、調査項目以外ほとんどが黒塗りで、川崎市域のまちづくりを本市が主体的に行っていることが確認できません。全てにおいて「横浜市の決定を待ってから」といった消極的な取り組みとなることが危惧されます。

シールド掘削だけならば、あざみ野駅～新百合ヶ丘駅間約6.5キロメートルを1年半程度で完了する聞いています。ところが、新百合ヶ丘新駅は、私がこれまで説明してきた通り、羽子板状の駅構造が必要で、小田急線のホームとのスムーズな結節も求められるため、完成に時間がかかります。ですから駅位置を早く決め、いまこそ地下鉄延伸完成が予定される2030年頃に向けた**新百合ヶ丘駅周辺の総合的なまちづくりのプランづくりを進めるときなのです。**

【9月の市議会の総括質疑】

あまがさ裕治 新百合ヶ丘駅周辺まちづくり推進事業は、現在、地権者を巡る環境に変化が生じていることから、総合計画第3期実施計画において、**より具体化した素案を示す**ことが求められる。

藤倉副市長 新百合ヶ丘の駅位置等に応じた駅前広場などの既存都市施設への影響に関する検討や、中間駅における路線バスを中心とした地域公共交通との連携を踏まえた、交通結節機能のあり方についての検討などを実施した。**現在も引き続き、延伸計画の進捗状況に合わせ、検討を進めている。**

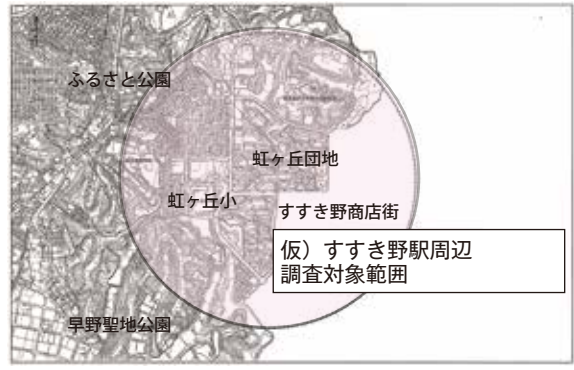


まちづくり特集号 麻生区のまちづくりに 皆様のご意見を!



川崎市議会議員
あまがさ ゆうじ 裕治

令和2年(2020年)度延伸計画推進業務委託で調査範囲として示されたエリア



ご意見をお聞かせください

- 【設問1】 麻生区のまちづくりで関心のあることは?
- ①地下鉄ブルーラインの延伸
 - ②ブルーラインの中間駅位置
 - ③中間駅周辺のまちづくり
 - ④リニア新幹線の工事進捗
 - ⑤尻手黒川線の開通
 - ⑥世田谷通りの拡幅
 - ⑦新百合ヶ丘駅周辺の再整備
 - ⑧百合ヶ丘駅周辺の再整備
 - ⑨柿生駅周辺の再整備
 - ⑩多摩線沿線の再整備
 - その他 _____
- 【設問2】 新百合ヶ丘駅北口ロータリーに必要なものは?
- ①バス乗り場
 - ②タクシー乗り場
 - ③自家用車の停車スペース
 - ④イベントスペース
 - その他 _____
- 【設問3】 北口再整備に伴う麻生区役所の移転について?
- ①賛成
 - ②反対
 - (賛成の場合) 駅周辺に残す機能は機能は? _____
- 【設問4】 いまお住まいの地域について
 周辺の世帯の増減やお住まいの方々の世代の変化、空き家率など、時代の変化の中で変わってきたことなど、まちづくりに対して感じていることがありましたら、お知らせください。

【ご意見】
 []

お住まいは? 麻生区 _____ 丁目

※居住地ごとに集計の上、川崎市に提出しますので必ず町番を御記入下さい

尻手黒川線第4期工事は2025年完成予定で着実に進んでいます

尻手黒川線は川崎市のラダー(はしご)型交通体系の主軸で、片平地区は最終工区です。昨年早期開通を求める請願が審査されて、その時に出された「道路整備プログラムの資料によると今年(2021年)度から工事が始まるとされていました。

これまで、特に麻生区内の工区は、沿線住民の大きな反対運動をうけ川崎市では初めてとなる都市計画道路への防音壁設置による決着を迎えたことなど、完成時期の遅れを余儀なくされてきた歴史の中、整備が進んできました。

用地買収が難航、8年も完成時期が伸ばされた

今年9月のまちづくり分科会で、世田谷通りから上麻生蓮光寺線を結ぶ「尻手黒川線第4期工事」について、市に具体的な工事予定、改めて最終工区のこれまで示された開通見込み時期の変遷と遅れた原因について聞いています。

片平地区は区画整理事業が進み、黒川までの道路整備が終わっています。こ

の第4工区は、2009年度に事業認可を取得し、当初は2017年完成予定でしたが、用地交渉に時間がかかり、大幅に遅れていました。2017年3月に策定した「第2次川崎市道路整備プログラム」で完成予定を8年延長し2025年としています。

世田谷通りと上麻生蓮光寺線を結ぶトンネル部分の用地も99%取得済み

用地取得率は約99%となり、現道拡幅区間において作業スペースや歩行空間確保のため、今年度、片平川より道路を切り廻す工事に着手しています。また、山側に擁壁を造る工事契約に向けた手続きも進んでいます。

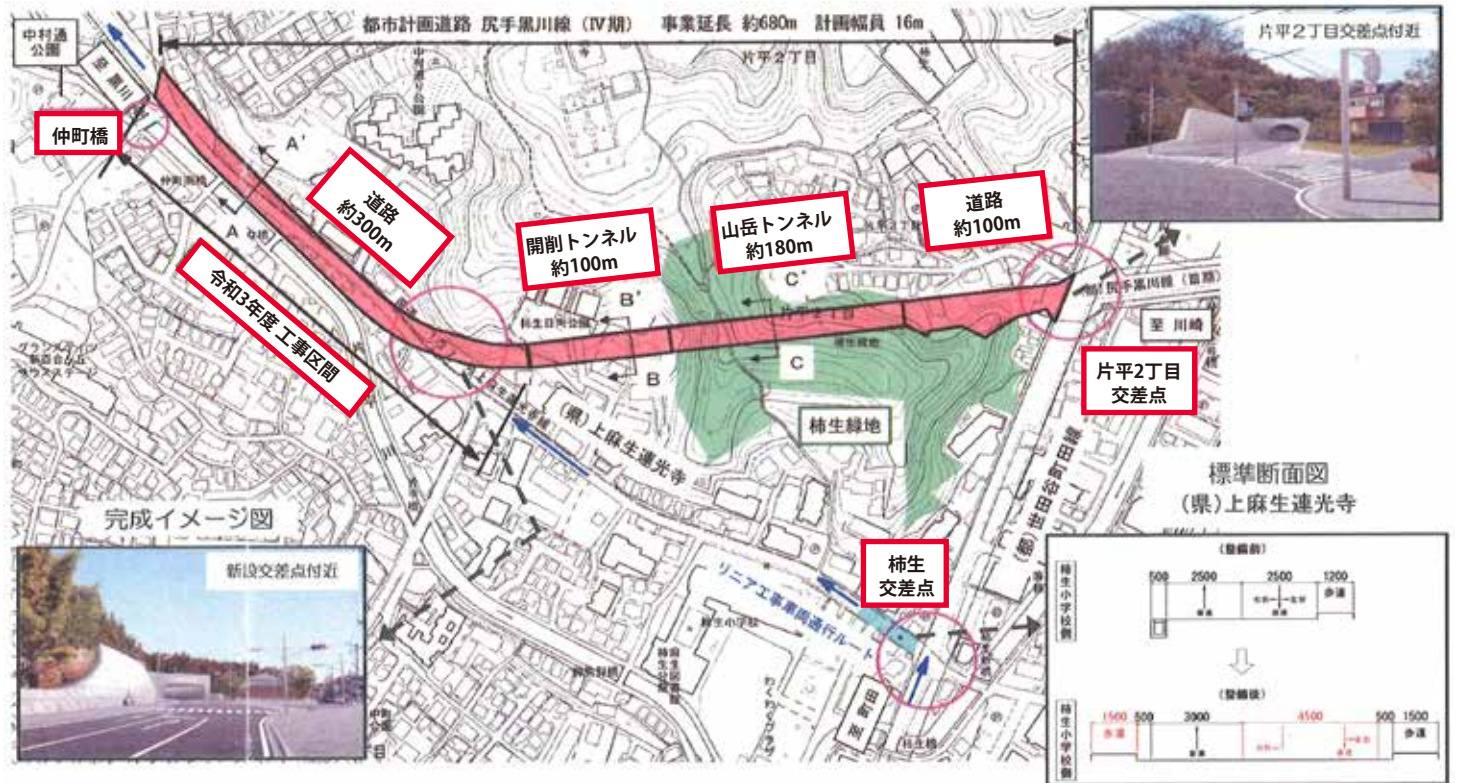
来年(2022年)度は、トンネル区間のうち、柿生緑地側の擁壁築造工事に着手。2023年度以降にトンネルおよび道路築造工事などを予定している、と説明しています。2025年の完成に向けて工事が進んでいて、尻手黒川線は川崎を縦に結ぶ幹線道路として、ようやく完成が見えてきたところです。



片平2丁目交差点付近(現況)



工事が進む新設交差点付近(現況)



郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認

1020

差出有効期間
2023年3月
10日まで

(受取人)
川崎市麻生区高石
3-27-4

あまがさ裕治

事務所行

住宅地の景観を守るために

新百合丘駅周辺都市景観形成地区

都市景観大賞は、全国の都市景観に対するさまざまな取組み事例から特に優れたものを大臣が表彰する制度で、1998年度に当該地区が「都市景観100選」に選ばれました。

新百合山手景観形成地区

2005年に川崎市が都市景観形成地区に指定。土地区画整理事業完了後から街全体の維持管理を図るため、「新百合山手街管理組合」「新百合山手景観形成協議会」「新百合山手公園管理運営協議会」の3つの組織が、里山の自然環境を生かした都市景観形成・保全に尽力してきました。2019年、「都市景観大賞 都市空間部門特別賞」受賞しています。

山口台自治会

都市景観形成地区と連なり、山口台自治会があります。新百合ヶ丘駅周辺の良好な住宅地としてのイメージは、この3地区が醸成させたといっても過言ではありません。開発の時系列をたどればこれら3地区のまちづくりは相互に影響を及ぼし作用してきました。

時間の経過とともに景観形成地区や区画整理によって作られた住宅街の管理も老朽

化を迎えてきています。特にこれまで管理の中心主体であったデベロッパーが撤退し、管理組合が解散した後の管理のあり方に新たな課題が発生しています。

山口台は白タイルを所々に配置した区域内道路の美観が「麻生八景」にも選ばれています。通常、行政の維持補修では白タイルを使用した補修は難しいとされていますが、例えば自治会内の緑生整備のために単年度ごとに独自に積み立てを行っている自治会の環境保全費は、本来行政が行うべき公的な緑生の管理にまで使われていますので、これらの原資の配分を見直すことで、標準行政サービス以上とされている白タイルによる補修を実現できないかと議会で質問。市と自治会での話し合いを続けていただいています。



タイルがかけた後、アスファルトで補修されている箇所



あなたのご意見をお寄せください

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市
TEL	()